

平成21年度能美市地域福祉活動計画

第1回アクションプラン推進協議会及び第1回評価委員会

日時：平成21年5月26日（火）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

出席者：高塚亮三・・・地域福祉人づくり委員会

井上徹、澤田時弘・・・地域福祉ネットワークづくり委員会

喜多泉、近藤沙夜里・・・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

西川方敏、南昭憲・・・私たちのボランティアセンターづくり委員会

田中邦一、荒井昌宏・・・学識経験者

[欠席 宮田明・・・地域福祉人づくり委員会]

以上敬称略

事務局：宮本会長、宮田事務局長、新川、海道、南野、谷

1. 開会の挨拶

宮本社協会長

昨年度は、4つのアクションプラン（以下「AP」という）並びに推進協議会、評価委員会を精力的に重ねて頂き、大変、成果があったと思う。今年度は、さらに活発な地域福祉に対する活動やご意見を頂きたい。

一方、社協そのものの改革ということで、運営検討委員会を立ち上げた。委員は、町会長連合会の正副会長、市民児協の正副会長に学識経験者2名を交えた8名で構成している。この委員会は、社協会員、会費のあり方、そして会費の使い方、ひいては、理事会・評議員会の構成、組織のあり方を協議して頂く。

社協の改革と併せて、地域福祉のより一層の進展にさらに努力していきたい。ご協力をお願いしたい。

2. 委嘱状の交付

アクションプラン推進協議会委員

評価委員会委員

3. 委員自己紹介及び推進協議会の会長・副会長、評価委員会委員長・副委員長の選出

* 自己紹介

澤田：町会長連合会から選出された澤田です。このような委員は、初体験ですが、がんばっていきたい。

井上：NWづくり委員会委員長の井上です。

荒井：昨年度から、引き続きの評価委員荒井です。

田中：泉台町町会長をしている田中です。昨年は、町会長連合会の会長をしていた。そのこともあって評価委員に声をかけてもらった。私は、40年ばかり、会社員をしていたので、どちらかと言えば、評価される側だった。評価委員という

そんな大役が、果たして務まるのかと思うが、みなさんと一緒にがんばっていききたい。

高塚：昨年から引き続き、人づくり委員会委員長としてこの会に参加している高塚です。昨年は、初年度で、人づくりの協議が、なかなか進まないこともあった。1年が経過して、今年度は、また新しい委員を得て前進していけるのではないかと私自身も期待している。

また、私は、認知症高齢者のグループホームを運営しており、地域福祉の理解が進むことが、地域の中での良い介護につながると確信しているため、このような機会に積極的に参加している。

西川：市のボランティア連絡協議会の代表として選出され、ボランティアセンターづくり委員会委員長となった西川です。昨年も同じ立場で、この会に顔を出していた。私の仕事は、システムウェア、システムづくりということでボランティアセンターづくりの中でそんなことができたらいいなと思い、参加している。昨年からの話が挙がっていた、各 AP 委員会の連携・調整が今年度はうまくできたら良いと思う。

南：ボランティアセンターづくり委員会副委員長の南です。私は、根上地区の自治公民館協議会会長を努めている。このような会は初めてで、1つずつ勉強しながら公民館としての意見を出していきたいと思う。

喜多：昨年に引き続いて、支え合いしくみづくり委員会で活動していく喜多です。子育てに関わるいろいろな支援・ネットワークをつくっていくことから、がんばっていききたいと思う。

近藤：昨年に引き続いて、支え合いのしくみづくり委員会副委員長をさせて頂く近藤です。昨年の反省もふまえ、喜多委員長をサポートしていきたいと思う。

・ AP 推進協議会 会長・副会長の選出について

事務局：どのように選出したら、よろしいか？

事務局：特に意見が出ないが、もし、よろしければ昨年に引き続いて、会長に高塚さん、副会長に西川さんをお願いしたいと思うが、よろしいか？

~~~~ 一同、拍手 ~~~

事務局：承認の拍手があったので、高塚さん、西川さん、お願いします。

高塚：みなさんの協力を得ながら、一生懸命務めたいと思う。

西川：高塚さんを補佐して、がんばっていきたいと思う。

会長：高塚亮三氏（人づくり委員会委員長）

副会長：西川方敏氏（私たちのボランティアセンターづくり委員会委員長）

・評価委員会 委員長・副委員長の選出について

事務局：それでは、次に、評価委員会の委員長、副委員長ですが、同じく、事務局としての案を出させて頂いてもよろしいか？

~~~~ 一同、異議なし ~~~~

事務局：それでは、委員長に田中さん、副委員長に荒井さんをお願いします。

~~~~ 一同、拍手 ~~~~

事務局：承認の拍手があったので、田中さん、荒井さん、お願いします。

田中：福祉活動の評価は、非常に難しいと思う。地域の福祉が、どのくらいのレベルまで進んでいるかを的確に評価することになるので、みなさんのご意見を汲み取りながら取り組んでいきたいと思う。

荒井：昨年に引き続いて、副委員長という大役を仰せつかった。田中委員長を補佐して、みなさんの協力を得ながら、務めたいと思う。

委員長：田中邦一氏

副委員長：荒井昌宏氏

4．これまでの経過の確認【資料1】

\* 確認事項

昨年度は、各 AP 委員会が、活動の PR や協議を重点的に取り組んだため、他の AP 委員会の活動を評価する余裕がなかったという反省から、今年度は他の AP 委員会の活動を見る・評価するという視点を持つ。

5．各 AP 委員会からの報告及び年間推進スケジュール、活動計画予算の確認【資料2・資料3】・・・事務局より説明

\* 各 AP 委員会からの報告

地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

喜多：5月20日に第1回目の委員会を開催した。昨年度の反省にあった若い層にも何かPRできるようなアクションがあったらいいなと話をした。具体的なことはまだ出ていない。また、働いている方、男性の方へのアクションとして、今年度は、商工会関係の方に協力を得て、PRやいろいろな理解を深めていけ

たら良いと話し合った。

委員会の開催は、昨年同様に2ヶ月に1回として進めて、必要に応じて毎月1回ペースになることもあるかもしれない。

#### 私たちのボランティアセンターづくり委員会

西川：5月19日に第1回目の委員会を開催した。委員11名のうち、3名が、新任で、最初は自己紹介、昨年度の経緯を確認し、今年度は、どれくらいのペースで委員会を開催するかを話し合った。月1回の開催で合意した。ただ、負担にならないように、1時間半程度で終わるようにすることにした。月1回、開催するという理由には、会議の協議内容を忘れないようにということもある。

#### 地域福祉人づくり委員会

高塚：5月18日に第1回目の委員会を開催した。昨年度は、「人づくりとは、そもそも何か？どう定義しどう評価するか？」ということを中心に議論した。また、積み残した課題がいっぱいあるが、今年度は、認知症サポーター養成講座、福祉教育について取り組むことを話し合った。人づくり委員会は、委員会の中だけで協議していてもなかなか進まないことが多く、他の委員会にも「人づくり」の要素があるので、他の委員会との連携・調整も視野に入れて、昨年同様、月1回のペースで委員会を開催していくことになった。

#### 地域福祉ネットワークづくり委員会

井上：5月14日に第1回目の委員会を開催した。この委員会は、ご存知のように地域福祉委員会設置を進めることと、いきいきサロンをどう取り組んでいくかが、主なテーマです。いきいきサロンは運営について情報交換するためのいきいきサロン連絡会を立ち上げ、その連絡会と委員会が連携していくということで、2ヶ月に1回、委員会を開催することになった。

#### \* 事務局より協議事項の提案

社会福祉大会での周知・報告の機会について

地域福祉フォーラムの開催方法・内容について

田中：地域福祉フォーラムの雰囲気を見ると、あれだけの参加人数と時間で、はたして市民の方と有意義な意見交換ができるのかと思う。一方的な報告・説明になるのは、仕方ないにしても、参加者からの発言を求めるのは少数に限られるのではないかと思う。分科会形式にすれば別だが。

喜多：年度なかばとなる社会福祉大会では、特に中間報告は必要ないと思う。去年は、少しでも活動計画を周知・PRする主旨で行ったので、今年度は中間のところでお互いのAP委員会の活動などを理解し合う機会にしたらどうか？年度末の地域福祉フォーラムは、少人数の分科会形式にし、去年は、各種団体の方々に声掛けして参加してもらい、そこから活動計画を広げてもらうようにしたが、

できるだけ一般の方にも参加してもらえるようにしたら良い。

井上：社会福祉大会の中間報告は、何か入れかわり立ちかわりの観があって、今、ひとつ伝わらなかったように思う。その後の講演会の印象が強く残った感じがした。

西川：昨年は、周知・報告という目的で行ったので、あれはあれで良かった。今年は、地域福祉活動へどんなふうに参加してもらえるのか、どんな思いでいるのかを、やはり分科会形式で市民の方に聞いてみたいと思う。昨年度のように報告する形式であれば、各委員会がそれぞれが報告するのではなく1つの委員会が、テーマを絞って深く掘り下げたものにしたら良い。

高塚：AP 委員会は、実行する立場にあるわけではないので、やはり、実際に実行している方などに発言してもらい、どういう思いで活動しているかを意見交換してもらうことは意義のあることだと思う。

フォーラムは、市民参加で行って、先程、喜多さんが言われた各 AP 委員会の調整は、福祉大会に限らず、どこかでやらないといけないと思う。

荒井：1年目にやらなければならないこととしては、1年目はできたのかと思う。今年度は、5年計画の2年目、5分の2ということで進捗状況の報告も少し必要だと思う。ただ、今年度は、昨年と同じことをするのではなく、福祉大会やフォーラムにしても、少し目先を変えて、昨年は、各委員会が実行していきたいことがアプローチできたのであれば、今年は市民の方の声を聞きながら、また、その方向性を2年目としてつくり上げていくスタンスのものが良い。

南：フォーラムでのパネルディスカッションのことだが、各地区の活動報告が主として進められたが、コーディネーターが、パネリストとのやりとりを含めてコメントする時間がもう少しあればと思った。良いコメントをされていたので、もう少し聞きたいと思った方もいるのではないか。今年度はディスカッションなどの意見交換ができるよう、内容を工夫したら良い。

高塚：時間的にタイトで、コーディネートに徹したような感じだった。

澤田：フォーラムに参加したが、あれだけたくさんの参加の中で意見を聞くということは難しい。反省点も含めて改善していけば良い。

近藤：フォーラムはやはり各 AP 委員会の活動を PR する形で、年度なかばの福祉大会には、資料でまとめて進捗状況の報告・周知をしてもいいのかなと思う。

事務局：事務局から大枠の案を提示すると、福祉大会は、地域福祉の意識を広く市民の方に持って頂けるように講演や映画上映などでどうかと思う。フォーラム

の方は、今年は分科会形式で、市民の広い参加を得て、意見交換を中心にどうかと思っている。ただ、少し前に分科会形式の学びフェスタがあるので、同じようなスタイルですと「またか」ということになるので、「お茶を飲みながら」という感じの和やかなスタイルで、できれば各 AP 委員会で企画して行うのはどうか？

高塚：分科会の他に全体会も考えているのか？

事務局：会場の移動のこともあるので、全体会は考えていない。

井上：学びフェスタとテーマが、重なるところもあると思うので、あまり、日をおかずの開催は、同じようなことを開催するような気がする。

事務局：全体会がない形であれば、各分科会を必ずしも同じ日時に開催せず、分散させてもいいのかと思う。そうすると1つの分科会だけでなく、いくつか参加したいという方には良いということもある。

荒井：学びフェスタの反省会からの意見をいうと、分科会のスタッフになる方は、自分の興味のある他の分科会には参加できないので、開催日が違うと他の分科会にも参加できる。各委員が、他の分科会に参加して得たものを自分の委員会に持ち帰ると、良い肉付けになるのではないか。

西川：AP 委員会にこだわらなくてもいいのかなという気もする。例えば、いきいきサロン連絡会を前面に出して、委員会と少し離れた形で行うのはどうか。

喜多：市民の方の声を聞く機会は、年度末ではなくて、年度なかばで声を聞きながら進めていきたいという思いもあるので、柔軟に考えるのであれば、各委員会が、必要な時期に企画して開催してもよいと思う。

事務局：今、頂いた意見をふまえて、次回までに事務局で案を提示したい。

## 6. 今後の予定

\* 昨年度の評価委員会での意見から、今年度の AP 推進協議会及び評価委員会の開催は2ヶ月に1回とする。

### 次回開催

日時：7月24日（金）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

協議：各 AP 委員会の情報交換

社会福祉大会・地域福祉フォーラムの案について

その他